

藤沢駅南口 391 街区の保全的再生プロジェクト

「探検！藤沢391 感じよう藤沢いまむかし」

政策・メディア研究科修士1年 河本 雄介

1. 藤沢 391 街区プロジェクトについて

藤沢 391 街区とは、フジサワ名店ビル、ダイヤモンドビル、CD ビルの 3 つのビルと中庭からなる街区である。この街区は 1961 年の「藤沢駅前南部防災建築街区基本計画」によって形成された防災建築街区である。中島直人研究室では、本街区を対象として、都市計画的価値の評価、戦後再開発ビルの特徴の調査などを行うことを通じて、本街区の地域資源としての確立を目指すとともに、その資源価値を地域に発信し、潜在価値を高めていくことを目的とした取り組みを行っている。



図 企画の広報に用いたチラシ

2. 活動報告

湘南藤沢学会の基金で行った、「探検！藤沢391 感じよう藤沢いまむかし」では、私達の活動成果を地域住民に発信することを通じて資源価値の潜在価値を高めることを目的としたイベントである。

■企画内容

- ① ビルの歴史や魅力の展示・発表
- ② 屋上空間の開放（飲み物の提供）
- ③ 市民参加型のワークショップ（ガリバーマップ）
- ④ 藤沢の歴史を伝える動画の上映会
- ⑤ 中島直人准教授（慶応大学）と初田香成助教（東京大学）によるトークセッション

■日時 2013年8月23日、24日、25日 11:00～20:00（最終日のみ18時終了）

■場所 フジサワ名店ビル6階ホール、7階屋上スペース

■参加者 中島直人（慶應義塾大学環境情報学部准教授）、初田香成（東京大学工学部助教）、慶大 中島研究室学生（院生2名 学部生10名）、来訪者220名（3日間総計）、報道メディア

■主要掲載記事

湘南経済新聞「藤沢で慶応 SFC が街の研究発表イベント『藤沢いまむかし』」2013年8月22日

<http://shonan.keizai.biz/headline/1799/>

タウンニュース「慶応大中島研究室『藤沢391』ビルの魅力発信」2013年8月30号（藤沢版）

<http://www.townnews.co.jp/0601/2013/08/30/201279.html>

3. 活動成果から得られた考察と展望

本企画を通じて、想定していた 200 名という目標を達成することができた。本企画はこれまでの活動成果を対外向け（ORF やオーナー会議を除く）に発表した初の機会であり、多くの集客が起こったことは驚くべきことであった。この成果から得られたことは、単に 391 街区を広く発信し、潜在的価値を高めることができたばかりではでない。それは、戦後再開発ビルの歴史という一般市民からは馴染みの無いテーマであるにもかかわらず、その場所を訪れ懐かしむ、「藤沢」の街に対する意識の高さと街への期待というシビックプライドを持った市民の多さを確認することができた。こうしたシビックプライドは、今後の藤沢におけるまちづくり活動を進めていく上で非常に重要な要素であり、藤沢では、より多くの市民のシビックプライドを醸成することのできるポテンシャルがあるといえよう。

今後の活動としては、引き続き 391 街区の存在価値を発信していくことに加え、今回の成果を今後に繋げるために、391 街区という街区スケールでのまちづくりから、藤沢という都市スケールでのまちづくりへとつなげていく方針でプロジェクトを進め、市民のシビックプライドを醸成していきたい。例えば、駅前周辺の街のあり方を考えるワークショップの開催、旧東海道藤沢宿との連携による都市デザインの検討など、様々なまちづくりの可能性がある。これらを通じて、成熟都市におけるストック活用型まちづくりに対する 1 つの示唆を与えていきたいと考えている。

4. 活動風景



①展示の様子（フジサワ名店ビル 6 階） ②トークセッションの様子 ③屋上空間でのワークショップの様子 ④上映会の様子